

## 野生動物保護募金活動(調査)報告書

平成 18 年度野生動物保護募金の助成を受けた、「アベサンショウウオ生息状況調査と保全」の実施結果を下記のとおり報告します。

福井県両生爬虫類研究会

会長 長谷川 巖

### 概 要

小型山椒魚のアベサンショウウオ(*Hynobius abei*) は、止水性、夜行性で、全長約 10cm の茶褐色の小型山椒魚である。厳寒期の 11 月から 1 月の降雪期に産卵し、繁殖期の雄成体は特に尾ビレが幅広くなり、産出された卵囊外皮には縦に条線が顕著に現れことが特徴である。国内小型山椒魚 18 種の中でも最も生息域が狭く、環境省の絶滅危惧ⅠA に分類され、両生類の中で唯一「種の保存法」で指定されている。

2006 年 5 月に、これまでの生息空白域の若狭湾沿岸の嶺南東部地域で幼生が確認された。*Hynobiusu* 類の中でも前肢 4 指、後肢 4 指の特異な形態であったため、若狭サンショウウオ(仮称)としていたが、2006 年 7 月に福井大学医学部でミトコンドリア DNA の遺伝子解析により希少種のアベサンショウウオと解明された。緊急に春季の幼生生息調査と産卵地の保全、冬季の成体・卵囊調査等の生息状況調査を実施した。以下調査報告書から抜粋して、活動内容や調査結果を時系列で報告する。

### 調査・保全の経緯

2006 年 5 月 22 日～6 月 4 日、嶺南東部地域の丘陵地の湿地を踏査して、幼生生息状況調査、同時に幼生生息地の保全活動を実施。

6 月 1 日:環境省:中部地方環境事務所長宛にアベサンショウウオ捕獲申請書提出(捕獲許可証取得)

7 月 1 日:福井大学医学部にて、ミトコンドリア DNA 遺伝子解析実施

7 月 10 日:若狭サンショウウオは絶滅危惧ⅠA のアベサンショウウオと判明

9 月 8 日:嶺南東部生息地行政関係者と、野生動植物の現状、里地里山保全の意義、絶滅危惧種アベサンショウウオの解説と今後の保全について協議

9 月 10 日:アベサンショウウオの幼生生息地の植生調査

10 月 19 日:第 45 回日本爬虫両棲類学会広島大会にて「福井県嶺南東部地域のアベサンショウウオの新生息地」を発表

12 月 2 日～2007 年 1 月 7 日:冬季成体・産出卵囊調査と産卵地保全。14 日間延べ 103 人の調査員によりアベサンショウウオ産卵地を確認、計測して放流した。

12 月 4 日:福井大学アカデミーホールにおいて各報道機関に発表

### 調査結果の評価

兵庫県、京都府と越前市西部地域のアベサンショウウオ生息空白域の若狭湾沿岸地域でアベサンショウウオの発見ができ、兵庫県から石川県までの日本海側に連続して生息していたと証明されるものである。嶺南東部地域の狭い範囲での生息の概要が判明した。今後の調査で生息域は拡大するものと予見される。

## 今後の保全活動

2007年度も継続して春季幼生調査、冬季成体、卵囊調査を実施して生息状況の全体像を把握する。夏季期間に産卵地の整備を実施する。さらに、行政関係に働きかけ保全指導員の育成を図り生息環境の保全に努める。また、各府県の行政担当者、両生類専門家を招聴して、2007年12月に「アベサンショウウオネットワーク会議」を企画中である。

## 収支決算書

### 支 出

項 目	金 額
1. 交通費など	227,521円
2. 資材費、印刷費その他	136,205円
合 計	363,726円

(不足分は役員で負担)

以 上